

特 殊 報

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成13年度病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、平成13年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

平成13年度病害虫発生予察特殊報第1号

- 1 対象作物 キク（品種：神馬）
- 2 病害虫名 キクえそ病
〔病原ウイルス：TSWV（Tomato spotted wilt virus）〕
- 3 発生地域 福岡県内
- 4 発生面積 5 a

5 特殊報発令の根拠

（1）発生の概要

平成13年6月上旬に、県内のハウス栽培のキクにおいて、葉脈間の黄化とえそ、茎及びその内部にえそを生じ湾曲する病害が発生した。

病害虫防除所においてTSWV抗体を用いELISA法で検定したところ陽性反応を示した。

また、九州・沖縄農業研究センターにRT-PCR法による検定を依頼した結果、キクえそ病であることが確認された。

県内では、平成12年度にミニトマト、トマト、トルコギキョウ等でTSWVの感染を確認している。

（2）キクでの病徴

一般に、葉に退緑とえそ輪紋を生じる。その後えそ斑へと進行し、やがて枯死する。枯死葉の付近の茎にえそ条斑を生じ、扁平や湾曲を生じやがて枯死する。発症は生育後期から出蕾期に多い。

症状は品種間差があり、感染していても病徴を示さない場合もある。また、夏期の高温時には症状が不明確になる。

(3) 伝染方法

本ウイルスの伝搬は、アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ、チャノキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ダイズウスイロアザミウマ）によって媒介される。特にミカンキイロアザミウマは、TSWVを伝搬する能力が高い。

1 齢幼虫のみがウイルスを吸汁獲得し、羽化した成虫がウイルスを伝搬するが、経卵伝染はしない。

また、汁液接種で容易に伝染することから、管理作業によっても伝染する可能性がある。

種子伝染及び土壌伝染はしない。

(4) 寄主範囲

本ウイルスは、約50科500種という非常に広い範囲の植物種に感染する。特にキク科、マメ科、ナス科では、全身感染して激しい病徴を示す。

TSWVに感染が確認されている主要農作物*

アカザ科	ハウレンソウ
アブラナ科	キャンディタフト
キク科	レタス、キク、ガーベラ、ダリア、キンセンカ、アスター、 ヒャクニチソウ、シネラリア、マリーゴールド
ゴマ科	ゴマ
ナス科	トマト、トウガラシ・ピーマン、ナス、ペチュニア、 タバコ
マメ科	ラッカセイ、ソラマメ、ササゲ、アズキ
ユリ科	ネギ
リンドウ科	トルコギキョウ

* 日本有用植物病名目録及び各都府県の病害虫発生予察特殊報より

6 防除上注意すべき事項

- (1) アザミウマ類（特にミカンキイロアザミウマ）の防除が最も重要である。（2001年度版野菜病害虫防除基準を参考）
- (2) 苗を移動（出荷、譲渡、定植等）する前は必ず防除を行い、アザミウマ類の拡散を防止する。
- (3) 苗の導入に当たっては、アザミウマ類の寄生の有無を確認する。
- (4) 施設栽培では、天窓や側窓に防虫網（0.6mm）を張り、アザミウマ類の侵入を防ぐ。
- (5) 成虫は黄色、青色に誘引されるのでこれらの色の粘着トラップを施設内に設置して発生の有無を確認する。
- (6) 発病株は見つけしだい抜き取り、必ず土中に埋めるか焼却する。
- (7) ほ場とその周辺の雑草は除去する。ミカンキイロアザミウマは花に発生が多いので、除草は雑草の開花前に行う。
- (8) 土中で蛹になるので、施設栽培では栽培終了後土壌消毒を行い、蛹を死滅させる。
- (9) 成虫は絶食状態にしておく数日で死亡するので、施設栽培では栽培終了後10日以上密閉する。
- (10) 疑わしい症状が発生している場合は、病害虫防除所・各地域農業改良普及センターへ連絡する。

キクえそ病 (T S W V) の症状

福岡県病害虫防除所



茎に黒褐色のえそ条斑を生じる。



茎のえそ部分から湾曲する。



葉脈間に黄化とえそを生じている。



T S W V は主にミカンキイロアザミウマによって媒介される。